

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp HP：太平山麓九条の会で検索



145号
2019年6月21日発行

栃木県民パレード＝雨にもめげず、多くの人が 「憲法を守れ!」「選挙に行こう!」 との声を上げました

6月15日(土) 雨にもかかわらず、たくさんの人が参加して「平和憲法を守り戦争法廃止を求める県民パレード」が行われました。城址公園では、出発式が行



(雨の中、挨拶する野党統一候補
の加藤ちほさん)

県民ネットと政策協定を交わした5党の責任者や野党統一候補になった加藤ちほさんが参加しました。出発式では5党と県民ネットとの政策協定の経過を説明した後、5党の紹介、5党を代表して立憲民主党の枝野代表の挨拶の後、加藤ちほさんが挨拶して「憲法を守り生かす政治をしていく」という趣旨の決意を述べていました。参加者は「憲法守れ!」「武器で平和は守れない!」「選挙に行こう!」「選挙で変えよう!」などの声を上げながら、城址公園から宮の橋までパレードしました。

だれもが自分らしく暮らせる明日へ

―野党が共通政策

憲法をないがしろにする安倍内閣の支持率が下がらない、多くの人が代りがないと思っているから。それが、来月の参議院選挙で変わる可能性が生まれつつある!

5月29日、国会内で「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が要望する13項目に五つの野党・会派の党首・代表がサインして13項目が市民と五野党・会派の「共通政策」になりました。

五つの野党・会派の考え方の違いから、共通政策作りは容易ではないと思っていました。市民連合が市民の要望を出し、それを一月かけて市民連合と五野党・会派の間でキャッチボール、練りあげ一致できました。昨年来、野党は共同ヒアリングを200回以上、共同提出した議案が27本など、いっしょに行動してきたのです。そのなかで信頼が深まり、一致点も互いに見えてきたのではない。共通政策を読んでもみると、第1項目の改憲問題では安倍改憲反対だけでなく「改憲発議そのものをさせない」まで一致しており、13項目すべてが私たちの切実な願いで、一致できたことはすばらしいと感じました。

共通政策全体のタイトルが「だれもが自分らしく暮らせる明日へ」、そんな日本に変える第一歩。七月は市民と野党が力を合わせる正念場だと思っています。

(郡司俊雄)

「お知らせ」

- スタンディング 7月9日(火)市役所前 7月19日(金)コープ前 共に16時から
- 太平山麓九条の会カフェ 7月27日(土)13時30分から 大平公民館2階会議室
- 檻の俳句館・無言館日帰り見学旅行 10月24日(木) 費用:8000円 募集は9月から
- 足利9条の会主催 映画「ザ・思いやり」パート2 (監督リラン・バクレー) 費用1000円
6月30日(日)足利市民会館 103号室 ①10時半から ②13時半から ③15時半から
- スタッフ会議 7月11日(木)・7月26日(金)13時30分から くららで
- 原水爆禁止国民平和大行進 7月10日(水) 入舟庁舎(旧栃木市役所そば) ⇒ 入舟庁舎 出発 17:30



「平和に生きる権利を求めて～恵庭・長沼事件と憲法」を視聴して

—— 大塚 育子

恵庭・長沼事件というと、9条違反を問うた自衛隊違憲裁判という思い込みがあったが、弁護士は憲法前文の「平和的生存権（＝平和のうちに生存する権利）」を求めた闘いでもあったと振り返っている。自衛隊法違反で起訴された被告は「無罪」になったものの判決は憲法判断には触れていず、「敗訴」と受け止められたという当時の状況を初めて知った。この裁判に続く長沼ナイキ基地訴訟では、一審で「自衛隊は憲法9条に違反」「平和的生存権を侵害される危険」を認めた「福島判決」がでたが控訴審では一審破棄となり、司法は「統治行為論」に逃げた。次いで、自衛隊イラク派遣差止訴訟では名古屋高裁が「憲法前文の平和的生存権はすべての基本的人権の基礎であり」「権利の侵害に対しては裁判所に対し救済を求めることができる具体的な権利である」と判断した（2008年）。私はこの判例をきちんと認識していなかったのが、大変勉強になった。軍備増強・自衛隊配備の拡大が各地で進む現在、袋小路に入ってしまった9条を支えるためにも、国際的広がりをもつ運動のためにも「平和的生存権」を前面に出して闘うことができると教わった。機会を作って、もう2・3度視聴して理解を深めたいと思っている。

恵庭事件（えにわじけん）自衛隊の合憲性がはじめて本格的に裁判所で争われた事件。北海道千歳郡恵庭町（現、恵庭市）にある陸上自衛隊の演習場付近で酪農業を営む野崎（健美、美晴）兄弟は、自衛隊の実弾射撃演習などで乳牛に多くの被害（流産や乳量減少など）を受け、たび重なる抗議も無視されたので、1962年12月11、12日、自衛隊の演習本部と射撃陣地を連絡する電話通信線を数カ所にわたって切断した。67年無罪判決。

長沼事件（ながぬまじけん）1969年（昭和44）北海道夕張郡長沼町に自衛隊の地对空ミサイル「ナイキ・ハーキュリーズ」基地を建設するため、政府（農林大臣）が同町馬追（うまおい）山国有林の保安林指定を解除したことに端を発する。基地反対派の地元住民は「憲法違反の自衛隊基地建設は公益上の理由にならず保安林解除は違法」として同年7月訴訟を起こした。



野党統一候補 加藤ちほさん を囲む会

●日時 6月27日（木）15時～

●場所 栃木市勤労者総合福祉センター
（栃木県栃木市今泉町1-2-7）

「立憲主義の回復と戦争法廃止を求める栃木県民ネット」と政策協定を結んだ野党共闘の統一候補として加藤ちほさんが決まりました。

加藤さんは1975（昭50）年9月10日生まれ、43歳。北海道出身。早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。政治に携わることになった原点は、在学中の阪神大震災および衆議院議員選挙へのボランティア体験。「最後は人」という信念のもと、自らが政治家として歩むことを決意したと言います。

加藤さんを囲む会を企画しました。直接加藤さんを知るとともに、私たちの思いを伝えましょう。お友達を誘ってお出かけください。

野党5党と県民ネットの政策協定（要約）

- 1 安倍政権の憲法「改定」とりわけ第9条「改定」に反対し、改憲発議をさせない。
- 2 安保法制、共謀罪法などの廃止。
- 3 防衛予算、防衛装備費を他の政策に振り向ける。
- 4 沖縄県名護市辺野古の新基地建設中止。普天間基地の早期返還。日米地位協定を改定。
- 5 北朝鮮との国交正常化、対話を再開すること。
- 6 福島第一原発事故の検証、避難計画の策定、原発ゼロ実現を目指すこと。
- 7 虚偽のデータに基づいて作られた法を廃止。
- 8 消費税率引き上げを中止、総合的な税制の公平化。
- 9 保育、教育、雇用に関する予算を拡充すること。
- 10 8時間働けば暮らせるルール実現、貧困・格差解消
- 11 L G B T s ・女性に対する差別を撤廃
- 12 森友学園・加計学園及び南スーダン日報隠蔽の疑惑を徹底究明し、透明性が高く公平な行政を確立
- 13 報道の自由を徹底